



大西暢夫写真展

# 家族の軌跡

3.11の記憶から

2015年7月6日〔月〕－12〔日〕

11:00－19:00 11日16:00以降、12日12:00－15:00は  
映画上映のためご入場いただけません。 入場無料

『家族の軌跡』映画上映とギャラリートーク

7月11日〔土〕 17:00-19:00 7月12日〔日〕 13:00-15:00

入場料1,500円 予約制〈申込先着順〉 ブックレット2冊付

開場は毎回15分前

会場 | 松明堂ギャラリー (期間限定オープン)

東京都小平市たかの台 44-9

西武国分寺線 鷹の台駅を出てすぐ左、書店の地下1階

主催 | 家族の軌跡鷹の台写真展実行委員会 <http://kodairar.com>

予約・お問い合わせ | 080-4831-9136 [kazokunokiseki.takanodai@gmail.com](mailto:kazokunokiseki.takanodai@gmail.com)

僕はカメラマンであるが、写真や映像を撮るといふことの  
当たり前は前提にあつても、右手でシャッターを切りなが  
ら左手を差し伸べる行為だけは、忘れていないつもりだ。



**大西暢夫**（おにし・のぶお） 写真家、映画監督、作家、記者

1968年生まれ、岐阜県育ち。東京総合写真専門学校卒業後、写真家・本橋成一に師事。29歳で独立し、ダムに沈む村や精神科病棟などの撮影をしつつ、東日本大震災の支援とともに取材を続けている。25年の東京生活に区切りをつけ、岐阜県池田町を拠点に活動中。主な著書に『僕の村の宝物』『水になった村』（情報センター出版局）、写真集に『アウトサイダーアートの作家たち』（角川学芸出版）、写真絵本『おばあちゃんは木になった』（ポプラ社 第8回日本絵本賞）、『ぶた にく』（幻冬舎エデュケーション）、『ひとりひとりの人』（精神看護出版）、『徳山村に生きる』『農家になろう2 ミツパチとともに』『農家になろう8 シイタケとともに』（農文協）、『糸に染まる季節』（岩崎書店）、共著に『山里にダムがくる』（山と溪谷社）、『花はどこから』（福音館書店）、『津波の夜に 3.11の記憶』（小学館）がある。映画監督作品に『水になった村』（第16回地球環境映像祭 最優秀賞）。

僕が暮らす岐阜県の池田町は、東北の街と交流がない。遠いところの話だ。支援しようとする意識が遠ざかっていくのも不思議ではない。

その距離をほどよく近づける場が、地元のカフェで開催を重ねてきた「東日本大震災 取材報告会」だ。

参加者の意識は、東北への支援から、この会の継続のための支援に変わってきたと感じる。「次を聞きたいから、また開催して!」と声が上がった。

報告会の入場料は、支援金、交通費にすべて消えるが、次につながる。自転車操業を続けることによって、写真や映像の記録が残った。

vol.1～9までは、写真と言葉で伝え、vol.10～15は、映像報告会と改名し、動画で伝えた。その映像を、記録映画として残していけるのではないか。

それを『家族の軌跡 —3.11の記憶から—』とし、現在も撮影は続いている。

—————大西暢夫

## 『家族の軌跡』 映画上映と大西暢夫のギャラリートーク

7月11日[土] 17:00-19:00 7月12日[日] 13:00-15:00

入場料 1,500円 予約制。各回開演の15分前開場。申込み順にご案内します。  
『東北沿岸600キロ 震災報告』『3.11の証言』ブックレット付



最新情報に関しては [kodairar.com](http://kodairar.com) をご覧ください。

主催 | 家族の軌跡鷹の台写真展実行委員会 お問い合わせ | 080-4831-9136 kazkunokiseki.takanodai@gmail.com